

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	金 子 瞳
2. 審査委員	主 査：(上越教育大学教授) 松 本 健 義 副主査：(岡山大学教授) 清 田 哲 男 委 員：(岐阜大学教授) 山 本 政 幸 委 員：(上越教育大学教授) 松 尾 大 介 委 員：(上越教育大学准教授) 伊 藤 将 和
3. 論文題目	芸術的行為に媒介された専門職としての教師の協働的で創造的な省察と学びに関する研究
4. 審査結果の要旨	教科教育実践学専攻芸術系教育連合講座 金子 瞳 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年2月27日（木） 10時00分～11時30分 場 所：オンラインで実施 1. 学位論文の構成と概要 ＜本論文の構成＞ 序章 問題の所在及び目的と方法 第Ⅰ章 芸術的行為に媒介された教師の省察研究 第1節 専門職としての教師の省察概念についての検討 第2節 芸術的行為と省察 第3節 芸術的行為に媒介された省察実践の検討 第Ⅱ章 自身の芸術的行為に媒介された教師の創造的な省察実践 第1節 描く〈行為の中の省察〉に関する事例研究 第2節 描いた痕跡に基づく存在との対話に関する事例研究 第3節 芸術的行為の過程で経験されるフレームの変化に関する事例研究 第Ⅲ章 子どもの芸術的行為に媒介された教師の協働的な省察実践 ービデオカンファレンスにおける教師の語り及び対話に関する臨床事例研究 第1節 子どもの芸術的行為への教師の語りと専門職性に関する事例研究 第2節 子どもの芸術的行為への教師の対話に関する研究事例 第Ⅳ章 専門職としての教師の学びのデザイン 第1節 実践事例のまとめ 第2節 専門職としての教師の学びのデザイン 終 章 研究の総括

＜本論文の概要＞

序章では、研究の動機と意義、先行研究の検討、研究の目的、方法、構成を示した。

第Ⅰ章では、ドナルド・ショーンの省察概念を整理し、芸術的行為と省察実践の実践的、対話的、創造的構造を示し、教師の省察的实践の分析や事例を文献研究より検討し、省察的实践家（専門職）としての教師は、その状況や対象に自身の実践の在り方である関係と過程を変化させることで状況を変化させ対応していく実践者であると位置付けている。

専門職としての〈行為の中の省察〉は、実践をしながらその枠組みや問題を組み替え、再考し状況を変化させる行為を伴う思考であるとし、専門職の〈省察的実習〉は、実践が現象する文脈が行為により遂行されるものとした。その上で、芸術のもつ実践的、対話的、創造的構造は、専門職としての教師が行為の中で変化する状況との省察的対話、及び関係、過程、文脈を創造する実践構造と類似することを示した。こうした芸術的行為に媒介された省察的実践の分析方法として「ビデオカンファレンス」を事例に「現象学的記述」と「オートエスノグラフィー」を検討した。

第Ⅱ章では、創造的な省察による学びと変容について、自身の大学院での演習「フリースローイング」、「フレイミング」、「行為をつないで 行為に出合って」を事例に「現象学的記述」と「オートエスノグラフィー」を用いて記述した。分析考察より、造形表現行為の過程において、実践者は表現（描く、つくる、驚く）と鑑賞（変化する痕跡、色や形）の循環的相互浸透において、色や形に結び付いた存在とその存在を現象させ経験する自らの行為を問い続ける対話を行う。表現及び鑑賞の芸術的行為と対話の過程において、実践者に描き方の変化、自明とする見方や感じ方の変化、世界の捉え直し、新たなフレームや問題設定といった〈行為の中の省察〉が経験されることを示した。また、自身の事例を筆者が分析、考察する過程は、表現（記述する、オートエスノグラフィー、相互行為分析）と鑑賞（実践記録を見る、事象そのものへ）の循環的相互浸透において、自己のふるまいや気付きと対話し、「判断停止」や自己のふるまいの省察といった「〈行為の中の省察〉についての省察」が経験されることが示された。

第Ⅲ章では、協働的な省察による学びと変容について、子どもの行為に着目しながら行う、学級担任と筆者によるビデオカンファレンス、対象児に関わる教師複数名でのビデオカンファレンスを実施し、事例として分析考察した。分析考察から、ビデオカンファレンスに参加する参観者に、[参観者と子ども]、[参観者と他の参観者]において、表現（語り、驚き、対象への志向、問い尋ねる）と鑑賞（実践記録を見る、他者の語りを聞く、事象そのものへ）の循環的相互浸透が生成した。子どもとの対話は色や形、コンテキスト、子どもの経験について、参観者との対話は他者の視点、他者の捉える対象の視点との対話が行われた。表現及び鑑賞の芸術的行為と対話の過程において、参観者に、意味生成、現実世界のつくり換え、意味の更新といった〈行為の中の省察〉が経験されることが示された。

第Ⅳ章では、事例の記述分析の成果を整理し、教師の省察的実践による学びのデザインの要素を、表現、鑑賞、対話の3点により実践過程における関係構造により示した。

終章では、本研究全体のまとめ、教育実践学への貢献、今後の課題を示した。

2. 審査経過

（1）研究の目的と論文構成との整合性について

審査では、研究の目的と論文構成との整合性について、序章における問題の所在、研究の意義、先行研究、研究の目的、研究の方法及び各章の構成より整合性が確認された。

（2）研究の独創性について

①芸術的行為としての表現と鑑賞の循環に着目し、その循環に媒介された自身の造形的活動演習において、人や道具との相互作用・相互行為により存在の現象及びその経験との実践的交渉により作品をつくる過程を実践的に経験し、その記述分析を通して専門職としての教師が他者と共に行う行為の中で世界を生成する協働的で創造的な省察の関係と過程を明らかにした。

②教師が子どもと実践をつくる造形的行為の関係、過程、文脈を同僚教師と共に実践し、さらにその

教師が学級で子どもたちと新たな実践を創造する演習を実施し、2つの事例のビデオカンファレンスの過程で変化する語り、知覚、行為の相互行為分析により、遂行し発揮しながら専門職性を形成する〈創造－鑑賞－対話〉を要素とした実習デザインと学びの過程を示した。

- ③「芸術的行為」を、制作者がイメージや目的をもって作品つくるのではなく、制作の過程で出会う「他者」（道具や素材、他の人、描いた痕跡）との相互作用から行為や意味が生成し、制作過程の作品や材料や用具との関係を組み替えて制作途中にある作品に対して造形的行為を遂行していく行為として本研究で位置づけたこと。また、造形的表現行為における表現と鑑賞と、ビデオカンファレンスや対話を「芸術的行為」として位置づけたこと。子どもと教師とが実践の過程で出会う「他者」（子どもや同僚、ものや場所、出来事）との相互作用において行為や意味が生成し、それらが両者の行為と意味と実践過程とを組み替えて、自他の見方、感じ方、ふるまい方、表し方をつくり変えて共感的な関係を形成し、互いの「生活世界」を新たに生成していく横断的な行為の過程であることを示した。

(3) 今後の発展性について

- ①図画工作科のもつ表現及び鑑賞と対話が、教師の専門職としての省察的实践の中核となる新たなアプローチであることを提示したことにより、目的と方法の技術的合理性に基づく教育実践の反省や修正とは異なる、実践の中での専門職としての教師の省察のデザインの在り方が具体化した。これにより多様な実践場面の関係と過程において、専門職としての省察のデザインを開発する可能性を開いた。
- ②子どもの学びと教師の学びは、実践の中でのみ同時に非対称的に生起する2つの省察の事象であり、その関係を相互作用的に指し示す新たな教育実践のパラダイムを「行為の中での省察」に着目した省察研究により提示した。造形的表現、語り、記述等による省察実践の関係と過程の共有と組み替え（つくり、つくり変え、つくる）の提示は、協働的で創造的で省察的な存在論的なアプローチによる教育実践の開発可能性を示した。

(4) 学校教育の実践への貢献について

- ①子どもの学びの実践過程と行為の関係を、教師が子ども共につくり、とらえ、組み替えることが、互いの実践における本質的諸相への気づきをつくり、教師の専門職性を学び続けることを可能とする授業やカリキュラムの基本構造への転換に貢献することが予想される。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 金子 瞳 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。